

2021年3月7日～3月13日 各家庭でのディポーション用テキスト

## ■識別力の訓練(2/2)

告発者であるサタンは、マルティン・ルターに向かって、その数多くの罪過を思い出させ、それらを並べたてて彼を責めた。そこでルターは言った。

「それでもう全部かね。」

「いや、もっとある。」

サタンはあざわらいながらそう言うと、なおも多くの罪過をあげた。

「それでもう全部かね。」

「そうだ。それでどうだと言うのだ？」

サタンがこう尋ねると、見るからに強壯な改革者は言った。

「さあ、このすべての罪過の下に、『イエス・キリストの血はすべての罪からきよめる』と書くがよい。」

サタンの非難は、絶えず罪に向けられる。罪を自覚させる御霊のお働きは、罪のしみを大目に見ることはしない。けれども、絶えず罪からの救い主を指す。罪過は人を圧迫し、告白は人を解放する（詩篇 32:1-5）。

サタンは自我、物的必要、社会的地位、自己保存などを指示する（マタイ 4:3、8、16:23）。御霊は自己否定の道、没我的な奉仕の道を指示する（16:24-26）。アポリュオンは、私たちの欲するもの、私たちの当然受けるべきもの、私たちの権利であるもの、私たちのなしうることの上に圧力をかけて、無理強いする。見えざる方は、私たちが他の人々のためになしうること、私たちがなしで済ますことのできるものを、忍耐をもって指示される。自己憐憫は私たちがすねさせるが、自己否定は私たちが救い主にあって強い者とする。自己保存は私たちが、想像上の侮辱に対して敏感にする。しかし、神のみこころに対する全き明け渡しは、私たちがあらゆる環境の下において麗しい者とする。

敵は失敗と心痛の過去を強調するが、助け主は私たちの主の現在の助けを高く掲げられる（詩篇 46:1）。悪魔は私たちの弱点を嘲笑することを喜ぶが、主はご自身の恵みの富がいかに大いなるものであるかを、私たちに思い起こさせてくださる。悪魔の非難は私たちの失敗に関するものであるが、御霊による認罪は神の誠実さを私たちに示す。誘惑者は私たちに、どんな犠牲を払ってでも当面の利益を追求するようにしつこく催促するが、信頼すべき方は、私たちに、永遠の益について語り、またバニヤンの小説に出てくる「解説者の家」における熱狂児と忍耐児のことを思い起こさせてくださる。偽りの父は私たちの問題を取り上げて、それがいかに絶望

的であり、不可能であり、苦痛を伴うものであるかを示すことによって、私たちの問題を誇張する。しかし恵みあふれる神は、私たちにお約束を思い起こさせてくださる。それによって私たちは、望みえないときにもなお望むことができる。なぜなら、「患難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出す……。この希望は恥をかかせることはない」からである（ローマ 5:3-5 英訳）。こうして私たちは、苦痛さえも益となりうることを知るのである。

光の天使に擬装する偽の天使は、私たちを、目に見えるところに従い世的な知恵（「悪者のはかりごと」詩篇 1:1）に従って歩ませようとする。しかし、初めから終わりまでを見通しておられるいのちの主は、私たちを信仰によって歩ませ（Ⅱコリント 5:7）、それによって私たちの天の父を喜ばせるようにしてくださる（ヘブル 11:6）。敵は私たちに、仕える霊である御使いたちが山に満ちているのを見させるよりも、むしろ、私たちに対する悪の大軍を見させようとする（Ⅱ列王 6:15-17）。敵は、私たちが他の人々から受けた心の痛手をいつまでも忘れないようにさせる。そして、「父よ。彼らをお赦してください」と言われた方の心を心として、後ろのものを忘れ、前のものに向かって走る（ピリピ 3:13、14）代わりに、奉仕のわざが全くできなくなってしまうように仕向ける。敗北者である悪魔は釘といばらだけを私たちの手に触れさせようとするが、勝利者なる方は私たちに、カルバリの木の勝利を見させようとされる。

識別力の訓練は、私たちが誘惑者の怒りの前に倒れ伏すことのないように、神の啓示の教えるところから従うことを要求する。私たちは、救いの君が用いられたと同じ方法、「……と書いてある」（マタイ 4:4、7、10）と明白に述べられた方法をもって、誘惑者の狡猾、利己主義、詭弁に対抗すべきである。私たちもまた神のみことばによって生きるべきであり、主なる神を試みるべきでなく、神のみを拝すべきである。自分の道を主にゆだね、主に信頼するなら、主はみこころをなされるということ信じなければならない（詩篇 37:5）。神はご自身の御旨を知る知識で私たちに満たすことができになり（コロサイ 1:9）、また破壊者の道から私たちを守ることがおできになるということ信じなければならない。「敵が洪水のように押し入って来るとき、主の御霊は敵に対して軍旗を掲げられる」（イザヤ 59:19 英訳）。私たちが少しの留保もなく全く神に服従し、悪魔に立ち向かうなら、悪魔は私たちから逃げ去るであろう（ヤコブ 4:7）。

みことばにより、御霊により、信仰により、神のみこころに服従することにより、そして自我と罪に対する訴えに抵抗することによって、神の道と破壊者の道とを識別することができる。